

生徒の自尊感情を高め、進路実現に繋げるための支援
～支援ツールを使った学習を通して～

1. 学校概要

(1) 学校沿革

本校は昭和27年に少年保養所分教場として開設され、同35年に屋形原養護学校として独立した。平成20年に知的教育部門を増設し、病弱教育(すこやかステージ)と知的障がい教育(はつらつステージ)を併せもつ、福岡市で唯一、二つの教育部門を有する特別支援学校である。児童生徒一人一人の障がいの状況や発達段階や特性に応じながら、心身の健康回復や改善を図ること、社会の一員として自立し、心豊かにたくましく生きていく児童生徒を育成することを目標に教育活動に日々取り組んでいる。

本年度は『めざす学校像』として、「児童生徒が学びを実感できる学校」「保護者が通わせてよかった、地域が地域にあってよかったと思う学校」「教職員が高い倫理観や誇り、達成感をもてる学校」という三つの考え方を掲げ、日々教育活動に取り組んでいる。

(2) 病弱教育部門について

本校の病弱教育部門では、病気の多様化に対応するために医療機関との連携を図り、教育的心理学的な立場から実態把握を行っている。隣接する国立病院機構福岡病院(1病棟)に入院している児童生徒や、福岡市教育委員会の就学相談を受けて「病弱教育を受けることが適切である」との総合的判断を受けた児童生徒を受け入れ、小学校・中学校の教育課程に沿った教育活動を行ってきた。(ただし令和2年度より、新型コロナウイルス感染症の影響により、1病棟に入院している児童生徒の在籍がない状態が続いている。)

児童生徒の障がいや病状に応じて学習内容の量や順番を変更したり、定期考査等評価の方法や形態を工夫したりしながら、一人一人に寄り添い、個に応じた学習指導を行っている。また、高等学校への進学を希望する生徒も多く、本人や保護者と密に連携をとり、将来の夢の実現に向けて、きめ細やかなキャリア教育および進路指導を実践している。

2. 主題について

(1) 主題設定の理由について

ア 学校の教育目標から

教育目標の具体的目標に、「個々の実態に即した支援を行うとともに、新学習指導要領の趣旨を踏まえた、主体的な学びを追求する。」「人権を尊重し、個性を生かす教育を推進すること」で、児童生徒の自尊感情の向上を図る。」とある。

イ 病弱教育部門中学部の現状から

本年度の中学部生徒は、学習段階や健康状況、障がいの程度は様々であり、腎機能障害や人

工肛門などを有する生徒が在籍している。本学部の在籍数は、中学部1年0名、2年男子生徒1名、3年女子生徒2名（うち1名不登校）である。I（準ずる）課程での学習指導を行っているが、入院や通院、体調不良で欠席が続く等で継続的な参加が難しく、学習空白がある。地域の小学校に在籍し中学部から入学した生徒は、苦手なことや初めてのことに對しての不安感が強く、自尊感情の低さや自信の無さから失敗することへ恐怖感を抱いていた。そのため、授業や行事への参加が難しく、保健室で過ごすことも多くあった。このような経験を有する生徒たちが、自らの健康状態を把握し、健康状態を維持、改善していこうとする態度を培いながら、成功体験を重ねることで自尊感情を高めることは重要である。

（2）主題及び副主題の意味

「生徒の自尊感情を高め、進路実現に繋げるための支援」とは、自らの意思で自信をもって物事に積極的に取り組むことができるよう、小さな成功体験の積み重ねから自信をもって積極的に卒業後の進路を考え、目標を持って取り組むことができる姿を目指すものとする。「支援ツールを使った学習を通して」とは、実際に体調管理チェック表や To Do Note を用いて習慣化することを通して、健康状態の把握や維持、学習の取り組み方を改善していこうとする態度を培うことである。

3. 病弱教育部門の自立活動について

特別支援学校の中学部であるということから、「自立活動」のカリキュラムを設けている。本年度の学校教育目標具現化の重点の中の「自立活動」の指導の重点として、「指導区分と指導内容の精選と重点化を図る」ということが掲げられている。個々の課題の解決や改善のために、どの項目・区分に焦点をあて、どのような学習内容を組んでいくのかを吟味する。そして、主体的に課題を解決したり改善したりしようという意欲を高めながら「自立し、豊かに強くたくましく生きていく」力の涵養を図っている。

【資料1：自立活動の指導時数及び内容項目】

学校生活全体での指導	教科と合わせた指導	自立活動で指導
健康状態に関すること 挨拶・礼儀に関すること 生活全般に関すること	保健体育（保健分野） 各教科	ソーシャルスキル キャリアアップスキル ストレスマネジメント等

【資料2：病弱教育部門 対象生徒 A「自立活動学習計画」】

指導目標を達成するために必要な項目の設定	指導目標を達成するために必要な項目を選定する段階					
	1健康の維持	2心理的な安定	3人間関係の形成	4環境の把握	5身体の動き	6コミュニケーション
	②病気の状態の理解と生活管理に関すること ④障がいの特性の理解と生活環境に関すること ⑤健康状態の維持・改善に関すること	③障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	②他者の意図や感情の理解に関すること		④作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること	⑤状況に応じたコミュニケーションに関すること

4. 実践

(1) 生徒の実態

対象生徒は、本校病弱教育部門に在籍している中学部2年生である。人工肛門、右示指・中指欠損であり、地域の小学校を卒業後に本校病弱教育部門中学部に入学した。小学校高学年の頃、感染症に罹患したことをきっかけに学校への登校が減り、5年生の頃から長期での欠席が続いたり週2、3回程度欠席になったりしていた。

流行の映画や漫画に詳しく、興味関心のあることについての情報収集や話をするのが好きである。また、学校生活の中では、学部の仲間や小学部の児童に対して思いやりを持って接することができる生徒である。

対象生徒の疾患として、人工肛門であり、自らの意思で排便をコントロールすることができず、便意を感じても肛門括約筋を上手く使うことができないため、便を我慢することができずに排便してしまう。中学部に入学してからは、便意を感じるとすぐにトイレに駆け込むことができおり、便器に座る前に漏れてしまうことはほとんどなくなった。しかし、便がいつ出るかわからない緊張感や不安感を抱いている。また、慢性的な便秘でもあるため、服薬して便を出しやすくする方法をとっており、便秘による腹痛や薬の調整による下痢での欠席も多い。

また、便秘や腹痛、服薬による下痢の原因として、偏食や水分補給の不足、生活習慣の乱れ等も主治医から指摘されている。

卒業後は高等学校への進学を希望している。自らの健康状態を把握し生活習慣を改善することで、健康状態を予測して事前に対策を講じたり失敗を回避できたりするようになることが期待できる。そして、自信をもって積極的に物事を考えることができるようになれば、自らの目標や夢を持って将来を考えることができるようになると思う。

(2) 実際の取り組み

ア 体調管理チェック表を活用した取り組み

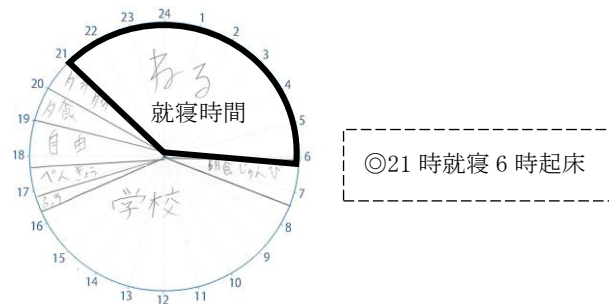
領域：1 健康の保持 - ④障害の特性の理解と生活環境の調整

将来、進学したり社会に出たりすることを見通し、自分の障がいに関する知識を深化させることで、合理的配慮の要請や合意形成を適切に行うことができるであろうと考える。

まず、自らの健康状態を可視化して把握することができるよう、毎日その日の睡眠時間や食事量、排便の時間や便の具合等を記入するようにした。中学部入学当初は下校後すぐに寝てしまい夜中に食事をし、朝方にもう一度寝て登校し、そのまま睡眠不足で授業中やトイレの中で寝てしまうという状況が続いた。小学校高学年で不登校気味であったため、睡眠時間のずれや体力のなさから生活習慣が乱れており、それに起因し体調不良も続いていた。そこで、まずは生活習慣を正すために睡眠時間の改善を図った。

各教科からの自立活動に関わるアプローチとして、保健体育「生活習慣と健康」の単元で、休養・睡眠と健康の授業を行った。その中で、生徒自身の普段の生活リズムを表に書き出し現状の把握をした。問題点としては、極端な早寝早起きのため夕食を摂れていないこと自宅での学習時間が確保できていないことが挙げられた。

【ア：①生活リズム



このことから、改善点として、21 時就寝 6 時起床、夕食を摂って就寝すること、食後の時間を有効に使うこと挙げ改善を図った。1 年生の 2 学期から生活リズムの見直しを行い、2 年生の現在では、就寝時間と起床時間を守ることができるようになってきている。

次に、体調管理チェック表の記入を行った。始めた当初は、睡眠時間を尋ねてもわからない、覚えていないという返答が多く、シートへ記入することができなかった。排便の状況の聞き取りも同様であった。そのため、毎朝の健康観察の時間に、就寝時間や起床時間を毎日繰り返し聞くことによって、徐々に自ら睡眠時間を意識することができるようになり、チェックシートの記入も教員の声掛けなく提出することができるようになった。記入することを習慣化することで、自らの行動や状況に意識を向けることができるようになり、自らの健康状態をより具体的に伝えることも少しずつできるようになってきた。

【ア：②体調管理チェック表】

体調管理チェック表 ～毎日忘れずにチェックしよう～						
日付	睡眠時間	食事	排便（有無・時間・事前把握）			状態
4/21(金)	: ~ :	朝・昼・夜	あり・なし	:	○・△・×	硬・柔・液状・その他()
5/9(火)	6:00~2:00	朝・昼・夜	あり・なし	:	○・△・×	硬・柔・液状・その他()
5/10(水)	9:00~4:00	朝・昼・夜	あり・なし	13:00	○・△・×	硬・柔・液状・その他()
5/19(火)	: ~ :	朝・昼・夜	あり・なし	:	○・△・×	硬・柔・液状・その他()
5/11(水)	: ~ :	朝・昼・夜	あり・なし	:	○・△・×	硬・柔・液状・その他()

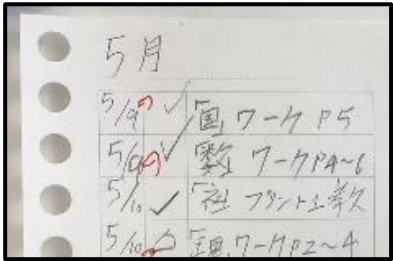
イ To Do Note を活用した取り組み

領域：2 心理的な安定-③障害による学習上又は生活上の困難を改善克服する意欲

欠席や排便の影響により継続的な学習参加が難しく、課題の提出が困難な状況であった。また、各教科で出された課題の提出率は低く、絶対に期日を守ると約束しているにも関わらず期限を過ぎて提出してしまうことが度重なっていた。

そこで、To Do Note を活用し、課題の教科・媒体・期限を明確に示した。加えて、やる気はあるが家に帰るとやる気をなくしてしまう状態であったため、自分の力でできる範囲、授業中のまとめの内容など、一人で取り組める量や内容を課題として出した。課題を伝えられた時にその場でメモを取ることを習慣化し、課題の把握もすることができるようになった。さらに、次の日に何を提出するのか、どのくらいで終わりそうかを話し合い、下校後に家庭で取り組むべきことを確認するようにした。一人でできなかった内容は、休み時間に教師と一緒に取り組んだり教科担当に質問しに行ったりして課題を終わらせることができるようになってきた。

【イ：To Do Note】



ウ プリント管理ファイルを活用した取り組み

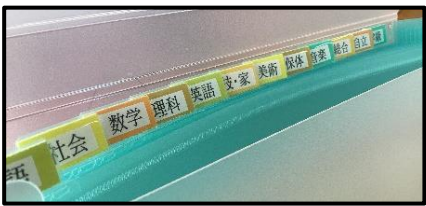
領域：2 心理的な安定-③障害による学習上又は生活上の困難を改善克服する意欲

家庭学習に取り組むにあたって、学習環境が整っておらず、課題物や教科書等を探すことから始める様子が多々見られた。授業で使用したプリント類やワークブックの解答などをよく紛失することも、学力が定着しない要因の一つと考えられるため、プリントの管理の方法を提示した。生徒自身で教科の見出しを作成し、シールを貼ってプリント管理ファイルを完成させた。学習プリント等

をきちんと保管することに努めることにより、基礎学力の定着を図った。

授業プリントや提出物などを、必要なものを考えてプリント管理ファイルに分けて入れることを忘れずに行うことができている。教科別に見出しを付けたことにより、すぐに出し入れできるようになった面でも有効な手立てであったと考える。

【ウ：プリント管理ファイル】



エ 自立活動でのコミュニケーション活動

領域：6 コミュニケーション-⑤状況に応じたコミュニケーション

他者と主体的にコミュニケーションを図ることができるようになったり、それにより多くの人と人間関係を構築したりすることができれば、自己有用感や自尊心が高まり、今後の進路選択・進路決定に向けて、前向きな考えをもつことができるようになると思われる。

自立活動の授業の題材で、「気持ちの良い挨拶をしよう」「周りの人の気持ちを考えよう」を取り組んだ。「気持ちの良い挨拶をしよう」では、普段の生活の中で挨拶をする場面を挙げ、なぜ挨拶は必要なのか、どんな挨拶をされると嬉しいかを話し合った。対象生徒は、普段の生活の中で自分から挨拶をしなかったり挨拶の声が小さく相手に聞こえなかったりという状態であった。授業後、相手が気持ちよく感じる挨拶を心がけ、実際に相手に聞こえるような

【エ：学習プリント】

声の大きさを相手の目を見ながら挨拶をすることが増えてきた。「周りの人の気持ちを考えよう」では、その場面毎に周りの人達が特定の人の言動に対してどのような気持ちになるかを考えた。その人の状況や考えによって考え方や気持ちが異なること、自分自身は何も思わなくても相手にとっては不快にさせてしまう言動があることを学ぶことができた。



5. 成果と課題

(1) 成果

- 自らの健康状態を把握することができるようになった。
- 生活習慣の乱れに気づき、改善しようとする態度が見られた。
- 提出物の期限を守ろうとする意識が見られるようになった。
- 苦手な教科や学校行事にも積極的に取り組むことができるようになった。

【資料3：生活・学習アンケートの変化】

質問項目	あてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	あてはまる	あてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	あてはまる
	入学当初				現在			
	1	2	3	4	1	2	3	4
社会のために役立つような人になりたい	1	2	3	4	1	2	3	4
毎日の生活が充実していると感じる	1	2	3	4	1	2	3	4
自分から勉強に取り組んでいる	1	2	3	4	1	2	3	4
思いやりのある人になりたい	1	2	3	4	1	2	3	4
バランスの良い食事を摂ることができている	1	2	3	4	1	2	3	4
睡眠を十分にとることができている	1	2	3	4	1	2	3	4
規則正しい生活週間について理解している	1	2	3	4	1	2	3	4
規則正しい生活習慣を身につけている	1	2	3	4	1	2	3	4
規則正しい生活を意識して行動している	1	2	3	4	1	2	3	4

(2) 課題

○家庭との連携

家庭における理解や協力が不可欠であるため、連絡帳や電話連絡で密に連絡をとることで、家庭での声掛けや見守りを継続的に行う必要がある。家庭と学校の両方での健康状態や精神面の状態を把握しながら、進めていく必要がある。

○継続的な体調管理

生活習慣やそれに伴う健康状態は入学当初から改善されてきているものの、新学期や連休明けに体調不良や腹痛や下痢による欠席が続くこともしばしば見受けられる。卒業後の進学や社会に出ることを考えるうえで、今後もさらに自らの身体を十分に理解し向き合っていく必要がある。

<参考文献>

- ・文部科学省,「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)」,開隆堂出版,2018.
- ・ことばと発達の学習室 M,「ソーシャルスキルトレーニング絵カード 状況の認知絵カード 中高生版 I」,エスコアール.